

令和元年度 美術学科 FD 研修会報告

日 時：令和 2 年 3 月 6 日（金）14:40～16:10

場 所：短大美術棟 2F A214 教室

講 師：美術学科 教授 権田宜子、准教授 新井 浩

テーマ：「後期成績評価、授業アンケート等に関する学習成果の評価について」

参加者：東田、権田、堀、新井、本山、和田、大谷、大場

欠席者：なし

美術学科後期における学習成果の評価について、科目レベルを後期の授業アンケート調査結果をふまえて、各科目の成績評価が到達目標に対して適性に行われているかを GPA の成績分布とともに検証した。前回と同様に、各教員でどのように成績評価の基準を設定し、評価をしているのか説明し、そのことについて共有し、改善点も含めて意見を交換した。

授業科目において、美術学科の後期に開講されている卒業制作（必修 3 単位）と各コースの演習Ⅲ（選択 5 単位）は、各コースの演習Ⅰ、Ⅱ（選択 8 単位）と同様ではなく、卒業制作については、純粋に作品自身の出来映えや完成度が展示を含めて成績評価となり、各コースの演習Ⅲは日頃の課題や卒業制作に至るまでの課程が評価につながることを話し合い、共有することができた。そして、コースによる GPA の隔たりがないようにするため、今年度の卒業制作展からコース担当以外の教員の評価も加えることとした。方法としては、S（4 点）と C（1 点）と評価する作品のみ選択し、その他は 2 点として平均 2 点をベースに加点減点しての作品評価することとした。その後の卒展審査会では、コース担当者の視点だけでなく、各教員からの評価が可視化されて加味されることで、多角的な評価に基づく審査結果となった。

オーディションの成績評価については、非常勤講師も含めた総合評価であるため、前期の FD ではマンガ・キャラクターコースの成績評価について、ルーブリックによる基準を設け、具体的に評価内容を示し数値で表すことで、学生の理解が何処まで深まっているかを可視化し、非常勤講師も含め教員間で共有する取組みの事例であったが、今回はデザイン・ビジネスコースでも同様に取組まれた報告があった。そこで、来年度の前期には、作品審査の指標として評価をルーブリックで行い、オーディションの始まる前に審査員には評価の観点を明確にし、基準を設けることにした。学生が何処まで理解し、学ぶことができたのかを明示し、客観的な根拠をもとに評価の是正しながら成績をまとめていくことが、他のコースでも同様に取組むこととなった。

また、学科レベルとして、全教員の GPA 平均値について適正な成績評価をしているか、学科として学習成果の評価が適切に行われているのかを検証した。S（秀）と A（優）評価の割合が多い科目もあったが、GPA 平均値が 1.5 以上 3.5 以下の範囲内になることを目安として B（良）を意識し、開講科目の成績分布と GPA 平均値との関係が適正であるか

どうかを今後も継続して検討していく。

学修評価シートについては、学習成果の項目として人間性より専門性の項目が多いため、美術学科における人間性・社会性・専門性についての学習成果の均衡を保つために、各教科の目標との関連を見直し、内容を確認することにした。

今回のFDでは、学位プログラムレベル（学科）、科目レベル（授業科目）の学習成果の達成状況进行评估し検証したが、卒業制作と各コースの演習Ⅲの各教員に任されている成績の評価方法や基準について共有できた。今後とも学習成果の評価について教員間で確認し、コースによって成績評価の隔たりがないよう取組んでいく。

